

松尾 栄太郎

1977年 長崎県生まれ
京都造形大学彫刻科中退。

版画家の井田照一氏に逢い、大学2回生で大学を中退し、1998年より、井田氏のアシスタントの道を選ぶ。

井田氏の亡くなるまでのおよそ9年間、彼はアシスタントとして師の作品の制作現場で多くを学び、様々な経験を積み上げ、2007年より自身の作品を発表し始める。

東京、名古屋、京都を中心に個展を開催。

今秋11月に京都で個展開催決定(Art Forum JARFO東山移店10周年記念企画展)

<<http://www16.plala.or.jp/jarfo/galleryjarfo.html>>

身近にある素材を使って制作する作家・松尾栄太郎

「平面のものを立体として、立体として存在するものを平面として表現する」という事をテーマとして制作を続ける。

紙は<平面>、しかしながら平面であるはずの紙は、
重ねること<層>を成し、丸める事で<点>にもなる。そこから様々な表情を見せる。

今回の作品タイトルでもある「HAZAMA」 一狭一 ある事柄と次の事柄との間の時間・空間。

その狭から見え隠れするものは私たちに普段は表面的に見えているその先、さらに奥にあるものの存在を気付かしてくれる。

例えば、作品にも用いられている辞書。
辞書の文字が重なり層を成すことでそこから見え隠れする文字や意味。
様々な言葉の意味が重なり、そこから更に深まる意味が、その狭から垣間見えるものが、
我々はいろいろな興味や想像力をかきたてられる。

荻堂シェフの料理もさまざまな食材の<点>となる魅力を引き出し、それぞれの持ち味を重ねること<層>を織りなす一皿。

同じ素材でも二人の手にかかる、身近にあるものから、いろいろな世界を広げてくれる。

さて、今回の松尾栄太郎の作品からインスパイアされた荻堂シェフがどんなお料理を表現するのが楽しみである。

今年から、荻堂シェフにご依頼を受けて店内のアート作品の
展示のコーディネイトをしております。

作品を美術館やギャラリーでご覧になるのも素敵ですが、
日々の暮らしの中に、世界にたった一つしかない作品が存在
することは、
いろんなパワーや癒しを与えてくれ、私たちの日常に潤いを
与えてくれます。

店内の作品にご興味を持たれたり、又、ご自宅やオフィスに
アート作品をとお考えの際はいつでもお気軽にご相談下
さい。
様々なアーティストの作品から、お客様の好みの作品を
ご提案させていただきます。

またご不要になった美術品のご売却のご相談もさせて頂く
事もできますので、お気軽にご連絡くださいませ。

Art Coordinator 湯浅 央子

古美術・美術品のオークション会社での経験を経て、
現代に生きるアーティストの作品の魅力を発信すること
を目指す。
Art Coordinatorとして、各地のアートフェアの運営アシ
スタント、ギャラリーでのDirectionや若手アーティストの
プロモーション。
企業とのアートコラボのキュレーション、また、デザイナー
による家具や食器等のコーディネートなど
アートが日常の中に身近に存在することの素晴らしさを
提案をする活動をする。

連絡先: Mail: eieivogel@gmail.com

Mobile:

URL: www.eiei-coordinate.com

(美術商 兵庫県公安委員会許可 第631301200011号)